

悲惨な戦争を繰り返さないように

7月2日から17日まで長崎原爆被災展



きのこ雲(上)と被災後の長崎市



七月二日 から総合福祉会館で長崎原爆被災展を開催します。広島市と長崎市に原子爆弾が投下されてから、今年で六十回目の夏を迎えます。戦争や原爆の悲惨な記憶を風化させず、次世代へ引き継ぐことが大切。今年には五年前の広島市に続き、長崎市の被災状況を紹介します。

また、併せて、前橋空襲のパネル展示や前橋空襲体験者が語る証言ビデオを上映。戦争の悲惨さを多くの人に紹介します。この機会に、平和の尊さについて理解を深めましょう。

日時〓7月2日～17日、午

前9時～午後7時(10日を除く。17日は午後5時まで)会場〓総合福祉会館(日吉町二丁目)

原爆被災物品の展示

原爆さく裂の瞬間である午前十一時二分を指して止まっている時計など三十点。

写真パネルなどの展示

被災後の長崎市街の写真など七十枚をパネルに。

被爆体験講話

日時〓7月2日・3日・16日・17日、午後1時30分～2時30分(2日は午前10時30分～11時30分) 内容〓被爆体験者が原爆投下直後の様子などを詳しく説明

原爆関連ビデオの上映

原爆の悲惨さを伝えるビデオなどを上映。

原爆・平和関連図書閲覧コーナー

長崎市所蔵の原爆・平和関連図書が閲覧できます。

前橋空襲パネルの展示

市民の戦争体験文と写真を組み合わせたパネル二十枚。

前橋空襲体験者による証言ビデオの上映

前橋空襲を実際に体験した市民三人が、当時の様子を語ったビデオ。前橋空襲六十周年を機に今年作成しました。

お問い合わせは生活課

8906237へ。

司修さんがスーパードバイザーに 文学館再生へアドバイス

前橋文学館の入館者は年々減少傾向にあり、この増加に向けた有効な取り組みが求められています。

そこで、新しい発想で前橋文学館を活性化するため、同館の企画運営について具体的な助言や提言をもらうスーパードバイザー制度を創設。五月二十日に本市出身の画家で大学教授の司修さんに委嘱しました。

司修さんは、本の装丁家として活躍する一方、小説も手掛ける芸術家。また、朔太郎の研究にも取り組んでいて、前橋文学館再生のアイデアや助言を頂くとともに同館の顔として活躍が期待されます。



委嘱状を受ける司修さん

による企画も実現します。今後、司修さんの助言や協力とともに、市民の皆さんと連携しながら前橋文学館の活性化を進めていきます。

〓お問い合わせは同館 2358011へ。

市有地を一般競争入札で売却します 旧警察署跡地など3カ所

市有地を一般競争入札で売却(前期分)。詳しくは、市役所などに置いてある「売り払いの案内」をご覧ください。

入札期日〓7月14日 会場〓

市役所11階南会議室 所在地・

面積〓 総社町四丁目一番一〇一・〇六平方(宅地)

大手町三丁目六七番一〇一三

八二平方(雑種地) 大友町

一丁目五番一〇一三二七・九一

〓お問い合わせは同課 8906657へ。